

令和3年3月2日
健康福祉局

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

1 モニタリング状況（参考数値）

集計期間：令和3年2月22日（月）～2月28日（日）

	指標	数値	前週	目安基準
(1)	直近1週間の新規陽性者数	147人	167人	—
(2)	直近1週間の人口10万人当たりの累積新規陽性者数 (陽性者数/(153万人/10万人))	9.61人	10.92人	2.5人未満 (※1)
(3)	週当たりの陽性者増加比 (当該週の陽性者数/前週の陽性者数)	0.88	0.97	<1(※2)
(4)	直近1週間の感染経路不明者の割合 (感染経路不明者数/陽性者数)	37%	46%	50%未満 (※3)
(5)	直近1週間の陽性率(※4) (陽性者数/検査実施人数)	4.06%	4.41%	—
(6)	入院中の患者数(※5) (疑似症患者を含む)	109人	107人	感染症患者受入病床 298床
(7)	入院中の患者のうち重症者数(※5) (疑似症患者を含む)	10人	10人	重症病床 30床
(8)	全療養者数(※5)(入院中、宿泊療養及び自宅療養者合計(疑似症患者は含まない))	474人	537人	—

これらの数値は、速報値として公表するものです。

※1 神奈川県警戒アラート指標の基準を準用

※2 新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言（新型コロナウイルス感染症対策専門家会議「緊急事態措置の解除の考え方」）より引用

※3 神奈川県の再警戒モニタリング指標の基準を準用
(再警戒基準：新規陽性者数が10人以上の時、50%以上)

※4 健康安全研究所及び民間検査機関による検査実績から算出（本市発表外陽性者も含む）

※5 2月28日(日)現在の報告数（前週分は、2月21日(日)現在の報告数）

2 評価

令和3年2月22日（月）～2月28日（日）の川崎市内におけるモニタリング状況は、以下のとおりです

(1) 新規陽性者数は、1月4日～1月10日の1123人をピークに減少し、前々週172

人、前週 167 人、そして今週は 147 人と減少が続いています。

(2) 直近 1 週間の人口 10 万人あたりの累積新規陽性者数も、同じく 1 月 4 日～1 月 10 日の 73.40 人をピークに、前々週 11.24 人、前週 10.92 人、今週 9.61 人と減少が続いており、目安基準（神奈川警戒アラート）2.5 人未満に近づきつつあります。

(3) 週当たりの陽性者増加比は、同じく 1 月 4 日～1 月 10 日の 2.08 をピークに減少が続いた後、前々々週の 0.57 から前々週 0.71 と上昇、前週 0.97 と 2 週間連続で上昇しましたが、今週は 0.88 と再び減少傾向となりました。目安基準 1 以下は、下回ったままとなっています。

(4) 直近 1 週間の感染経路不明者の割合は、一旦 40%まで低下したものが前々週は 45%と若干上昇、前週は 46%とそのまま停滞状態となりましたが、今週は 37%と再び減少傾向となりました。目安基準 50%未満は、下回ったままとなっています。

(5) 直近 1 週間の検査陽性率は、一旦低下が続いていたものが、前々々週 6.04%、前々週は 6.02%と横ばい状態となりましたが、前週 4.41%、今週 4.06%と再び減少が続きました。

(6) 入院中の患者数は、直近 1 週間の新規陽性者数のピークが 1 月 4 日～1 月 10 日であったのに対して、これに 2 週遅れて 1 月 18 日（月）～1 月 24 日（日）の週 182 人をピークとして減少が始まり、前々週は 143 人、前週は 107 人、今週は 109 人と停滞気味となっています。

(7) 入院患者のうち重症者数は、1 月 4 日～1 月 10 日の 31 人をピークとして、その後 22 人、23 人、21 人、15 人、そして前々週 8 人と減少しましたが、前週は 10 人、今週も 10 人と停滞気味となっています。

(8) 全療養者数（入院中、宿泊療養及び自宅療養者合計）は 1 月 18 日（月）～1 月 24 日（日）が 2901 人とピークでしたが、その後 2399 人、952 人、562 人から 537 人といった減少が鈍くなりましたが、今週は 474 人と再び減少となりました。

(1) 全体の新規感染者数、(2) 直近 1 週間の人口 10 万人当たりの累積新規陽性者数、(3) 週当たりの陽性者増加比 (4) 直近 1 週間の感染経路不明者の割合、(5) 直近 1 週間の検査陽性率は、今週は前週に比べすべて減少となりました。

(6) 入院中の患者数、(7) 重症患者数はほぼ横ばい状態、(8) 全療養者数については減少が続いています。

このところ本市での状況は全体に減少傾向が鈍り始めているものの、関東首都圏の一部では若干の増加傾向がみられる地域があるのに比し、本市では減少傾向が続いています。まさに多くの市民の方々のご理解とご協力の賜物ですが、もう一步、という感じですが、ここにきて少し安心して頂ける状況となっていることは大変有難いことですが、安心が油断となり、気が緩んでしまうと 12 月下旬の状態に戻ってしまう可能性があります。さらに感染者数が落ち着き、重症患者発生が少なくなり、一般の医療に心配がなくなり、続いて経済状況が回復できるためには、もう少々重ねてのご協力の継続をよろしくお願いいたします。

肝心なことは変わらず、引き続き三密を避ける、適切な距離が保てないなどの時は

マスクをつける、手洗い・手指の消毒をこまめにするなど、日常生活においての基本的な、そして重要な注意です。川崎市内における皆様のこれらの何気ない注意の積み重ねが感染のリスクを減らし、その結果として入院者数・重症者数・死亡者数を減らすという、明らかな効果が連続して現われています。

また三寒四温の季節の中、陽気の良い時にはどちらかへお出かけになることもあるかと思いますが、やはり混雑する場所や時間帯はできるだけ避けて、家族単位などの少人数でゆっくりと、しかし長時間にわたることなく過ごされることなどについても、重ねてよろしく願いいたします。

なお、市内のインフルエンザ定点から毎週報告を頂いているインフルエンザの発生動向につきましては、2021年第7週（2月15日～2月21日）の報告も0で、2021年第1週～第7週の市内のインフルエンザ報告数は合計4に留まっており、昨年からそのまま極めて少ない状況が続いています。

一方毎年発生する花粉は、今年も始まっています。こちらにも注意をしながら、安寧にお過ごしください。